岩手県立盛岡第一高等学校
創立140周年

140th Anniversary
MORIOKA DAIICHI

2020.10.10

岩手県立盛岡第一高等学校

岩手県立盛岡第一高等学校

校長 佐藤　有 （昭和54年卒）

岩手県立盛岡第一高等学校が創立百四十周年の記念すべき節目を迎え、生徒、教職員一同、感慨一入なものがございます。

顧みますと、本校は明治十三年、黎明期の近代岩手の教育を担うべく公立岩手中学校として設立されました。爾来、時代の荒波を越えながら、輝かしい歴史と伝統を校史に刻んで参りました。世に送り出した卒業生は三万二千有余名にも及び、各人それぞれが国内外、各層各界で傑出したリーダーシップを発揮している様子に接して、ここ「白堊」の土壌に建学の精神が脈々と息づいていることを実感いたします。

これまで本校の充実、発展に鋭意ご尽力賜りました歴代校長、教職員、同窓生、保護者のほか関係の皆様に衷心より深く敬意を表したいと存じます。

東日本大震災津波という未曾有の災害からまもなく十年になります。この間、グローバル化の進展やAI等の先端技術を取り入れたSociety5.0の到来等、社会構造や仕組みが目まぐるしく尚且つ大きく変化し続けています。そして現今、新型コロナウイルス感染症対策が喫緊の課題となり、新しい生活様式など価値観を見直す機会になっています。ビジョン&ワークハード!直面する様々な課題をポジティブに受け止め、持続可能な理想社会を想像・創造するために、自ら勉めて学び続けてほしいと願っています。

ここに、生徒、教職員一同、この度の創立百四十周年の出会いに感謝し、白堊校が次なる輝く時代に向けて興隆の途を拓くよう努力することを誓い式辞と致します。

岩手県立盛岡第一高等学校 創立140周年記念事業推進委員会

委員長 藤尾善一 （昭和45年卒）

爽秋の蒼天の下、創立百四十周年記念式典・シンポジウムを盛大に開催できますことを心から御礼申し上げます。

栄光の青史に思いを致すと、薫陶賜った代々の諸先生はじめ、保護者、同窓会等学校関係者の方々の御尽力あったればこそと深く感謝申し上げます。

文豪、幸田露伴は、内丸の白堊城を当時唯一の帝国大学に似たると評しましたが、新興明治にあって教育にかける本県の並々ならぬ熱誠と心意気が伝わってまいります。蒲池彌太郎初代校長の「文明の先駆をなして天下の大任を負うもの焉ぞ此の校より出ざるを知らんや」の気概は今に至っており、新たな意味を帯びて、生徒達を突き動かすのではないでしょうか。

春秋ここに百四十、長きを誇るのではなく、光栄とすべきは、多様な可能性を尊び、自ら学ぶという気風であり、互いの多彩さに共感し共に成長できる豊かな校風ではないかと存じ、真の伝統とはと問われれば、そのことを先ずは誇りたいと存じます。

当委員会としては、記念事業として、本日開催のシンポジウムのほか、「キャリア教育支援人材バンク」の創設やSGHの後継事業としての海外派遣の支援に取り組むこととしました。各位の御理解と御協力をお願致します。

これからも、志高く、新しい時代に対応した社会を創造できる人間を育成し続ける母校の更なる発展を祈願し挨拶と致します。

岩手県知事

達増拓也 （昭和58年卒）

盛岡一高創立140周年、まことにおめでとうございます。

同窓生の活躍は、岩手県内はもちろん、全国に、世界に広がり、頼もしい限りです。最近は南極でも活躍しています。南極は、地球上で唯一、新型コロナウイルスの存在が認められていない大陸であり、同ウイルスの感染例が少ない岩手県からすると、南極が一層身近に感じられます。

新型コロナウイルスに関しては、岩手県内の、医療関係をはじめ、保健福祉関係、教育関係、消費者サービスなど、様々な現場で同窓生が奮闘していて、頭が下がります。また、厳しい状況の経済関係や、文化・スポーツ関係では多くの同窓生が苦闘しており、今こそ広く同窓生が力を合わせ、励まし合い、お互いにできることをし合うべき局面です。

創立140周年ともなると、物故された先人を含め、同窓生の重みは相当なものですが、若い同窓生、そして現役生には、ぜひ伸び伸びと活躍してほしいです。令和卒業の同窓生もいる時代です。上の世代が思いつかなかったことを考え、できなかったことをやる、ということを期待します。もちろん上の世代も、新型コロナウイルスに限らず、奮闘・苦闘を続けますが、「一高の校風は『自由』だ!」であり、自由が利く「未来」をより多く持っている皆さんに、希望を持ちたいです。『スターウォーズ』の最近の三部作における、ルーク、レイア、ハン・ソロの心境です。「浩然の大気」と共にあらんことを。

生徒代表

2年 中居優作

本日、長き歴史を受け継いできたこの盛岡一高の創立140周年記念式典に参加できますことは、私たち生徒にとりましてこの上ない喜びであり、感慨深いものがあります。

先輩方が140年間綿々と一高を作りあげてきた中で、特にもこの10年は時代が大きく変化したときでした。130周年の年には東日本大震災があり、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大など、当たり前のことが当たり前ではないと感じさせる出来事が多々ありました。しかし、150周年までの10年間もVUCA時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の強い時代）となります。

こうした時代に一高はどのような姿であるべきか、私は「真理を深く究むるところ」であるべきだと思います。これは讃歌第3番の一節です。今まで誰も知らなかったことに対して、自分で情報を集め、行動し、磨きをかけていく気風が必要だと思います。私も含め一高全体でこの気風を作りあげ、柔軟に変化を受け入れ、活かし、一高の仲間と高め合えば、一高はこれからも岩手の先頭に立ち、よりよい未来に貢献できるのではないでしょうか。

一高には時代の先駆者として、そしてこの実践者として「忠実自彊」の精神のもと、様々な分野に偉大な先輩方がいらっしゃいます。今日はそうした先輩方の功績、生き方から学びつつ、これからの一高の発展につなげる場にしたいと思います。

記念式典　令和2年10月10日(土)13:00／盛岡市民文化ホール

物故者に対する黙祷

1. 開式のことば
2. 国歌斉唱
3. 校長式辞
4. 創立140周年記念事業推進委員会会長あいさつ
5. 感謝状贈呈
6. 生徒代表のことば
7. 校歌斉唱
8. 閉式のことば

記念シンポジウム　令和2年10月10日(土)14:00／盛岡市民文化ホール

「世界が変わる　問われる人間力　～次代につなぐ　理想の船路～」

感謝状贈呈者

◆歴代校長

第35代校長　千葉研二　様
第36代校長　故 高橋和雄　様
第37代校長　高橋廣至　様
第38代校長　平賀信二　様
第39代校長　川上圭一　様

◆歴代白堊同窓会長

第12代会長　安達孝一　様
第13代会長　谷村邦久　様

◆歴代PTA会長ならびに歴代白堊振興会長

第25代PTA会長ならびに第10代白堊振興会長　工藤重信　様
第26代PTA会長ならびに第11代白堊振興会長　松尾正弘　様
第27代PTA会長ならびに第12代白堊振興会長　内舘茂　様
第28代PTA会長ならびに第13代白堊振興会長　渡辺正和　様

記念シンポジウムシンポジスト

三陸鉄道株式会社
代表取締役社長
中村 一郎(なかむら いちろう)氏（昭和49年卒）

1955年　盛岡市生まれ
1979年　東京大学法学部卒業、岩手県入庁
2010年　沿岸広域振興局長
2012年　政策地域部長
2014年　復興局長
2016年　岩手県退職、6月より現職

一般社団法人三菱みらい育成財団
常務理事
藤田(ふじた) 潔(きよし)氏（昭和53年卒）

1960年　水沢市生まれ
1983年　東京大学経済学部卒業、三菱商事(株)入社
天王洲開発プロジェクト、人事部で採用担当責任者、英国駐在の後
2002年　人事子会社ヒューマンリンク(株)社長就任
2009年　三菱商事(株)人事部長
2014年　総務部長
2016年　東北支社長
2019年4月より現職

国立極地研究所南極観測センター
教授・副センター長
橋田(はしだ) 元(げん)氏（昭和57年卒）

1963年　花巻市生まれ
1993年　シドニー大学工学部海洋工学グループ研究員
1994年　東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程後期修了
1995年　国立極地研究所採用
2016年　国立極地研究所南極観測センター副センター長
2019年より現職

◇南極地域観測隊員歴
・観測隊員として通算5回
（第39、43、44、52、53次隊）
・副隊長兼越冬隊長として1回（第54次隊）
・第62次隊長兼夏隊長として本年11月出発予定

コーディネーター

東北大学病院
加齢・老年病科院内講師
石木(いしき) 愛子(あいこ)氏（平成15年卒）

1984年　盛岡市生まれ
2009年　弘前大学医学部卒業
2009年　岩手県立中央病院初期研修医
2011年　岩手県立高田病院内科医師
東日本大震災被災地医療を経験
2013年　東北大学大学院医科学研究科医科学専攻博士課程修了
2016年　東北大学病院加齢・老年病科助教
2019年より現職

◇資格等
・日本老年医学会認定老年病専門医
・日本認知症学会認定認知症専門医
・日本老年医学会高齢者栄養療法認定医

株式会社岩手日報社
常務取締役兼編集局長
川村(かわむら) 公司(こうじ)氏（昭和59年卒）

1965年　花巻市石鳥谷町生まれ
1988年　慶應義塾大学文学部卒業、岩手日報社入社
東京支社編集部、北上支局長などを経て報道部長
2011年　東日本大震災報道を統括
2014年　編集局長
2019年より現職

岩手県立盛岡第一高等学校　2011−2020史

◆東日本大震災と復興支援（2011年）

本校は、宮古高校のパートナー校としての支援活動、義援金募金活動などを行った。また、同窓会では寄付を募り「震災復興支援白堊同窓会特別会計（震災白堊基金）」を設立し、被災生徒の修学資金補助、沿岸地区の被災した高校への活動補助等の事業を行った。

東日本大震災と復興支援

◆8学級から7学級へ（2011年から順次、2013年完成）

◆〈55分6校時〉から〈50分7校時〉授業へ（2012年）

◆白堊ホールにエアコン設置（2012年）

◆女子應援委員誕生（2017年）

◆グラウンド夜間照明LED化（2019年）

◆自彊寮閉寮（2020年3月）

入寮者の減少と建物の老朽化等により124年の歴史に幕を下ろした。

女子應援委員誕生

◆研修旅行

3コース（関西・九州・沖縄）選択が2016で終了、2017から広島・関西コースに一本化。
※2012にはノロウイルス集団感染（関西コース）と地震による交通機関の乱れの影響（全コース）など大変な混乱があった。

自彊寮閉寮

グラウンド夜間照明LED化

◆新型コロナウィルスにより多くの活動が中止や縮小を余儀なくされている。（2020年）

◆SGH〈スーパーグローバルハイスクール〉（2015年-2019年）

文部科学省から指定を受け5年間事業を行った。SG課題研究では、ローカルな視座からグローバル課題を見据え、解決法を探り、提案する。フィールドワークを行い、外部の指導も受けながら研究を重ね、プレゼンテーションと英語による発表を実施した。またSG海外フィールドワークとして、ボストンに3回、台湾に2回の生徒派遣を行った。これらの成果は2020（R2）年度から「総合的な探究の時間（M探）」に引き継がれている。

ボストン

台湾

部活動の活躍

◆北東北インターハイ（2011年）

◆いわて国体（2016年）

陸上　続く全国上位入賞に沸く

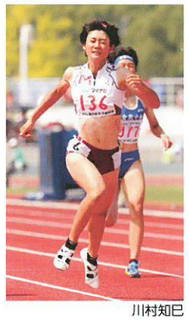
荒川沙絵

佐々木天

2013年（平成25年）
【全校高等学校総合体育大会】
100mH ……荒川沙絵　2位
【国民体育大会】
少年女子Ｂ200m……川村知巳 優勝

2014年（平成26年）
【全国高等学校総合体育大会】
女子5000mW……熊谷菜美　7位

2015年（平成27年）
【全国高等学校総合体育大会】
女子総合…7位　トラック…6位
200m …… 川村知巳 優勝
100mH …… 佐々木天　2位


川村知巳

2017年（平成29年）
【国民体育大会】
少年男子B3000m …… 佐々木　曌　3位
少年女子B走幅跳…… 山中愛仁果　8位

登山女子

2度のインターハイ優勝

登山部女子はインターハイで2013年から2019年まで2度の優勝と数々の上位入賞を果たしている。

2015年優勝

【全国高等学校総合体育大会登山大会】
2013年（平成25年）……7位
2014年（平成26年）……5位
2015年（平成27年）……優勝
2016年（平成28年）……3位
2017年（平成29年）……優勝
2018年（平成30年）……7位
2019年（令和元年）……3位

2017年優勝

【国民体育大会】
2017年（平成29年）
少年少女ボルダリング競技……岩手少年女子 優勝　田中里旺 出場
少年女子リード競技……岩手少年女子　2位　田中里旺 出場

水泳

【全国高等学校総合体育大会 水泳競技大会】
2014年（平成26年）
50m自由形……向中野元気　5位入賞

【全国JOC夏季水泳競技大会】
2016年（平成28年）
100mバタフライ…… 一戸元喜　8位

向中野元気

弓道

【全国高等学校弓道選抜大会】
2013年（平成25年）
男子個人……佐藤伶音　2位

ハンドボール

【国民体育大会】
2013年（平成25年）
岩手少年男子……優勝
藤原竜郎 出場

囲碁将棋

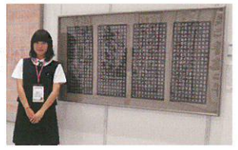
【全国高文連新人大会】
2011年（平成23年）　女子個人戦……小山田友希　3位

【全国高等学校総合文化祭将棋部門】
2016年（平成28年）
女子団体……2位

2016年女子団体

書道

【全国高等学校総合文化祭書道部門】
2016年（平成28年）
奨励賞……佐々木彩音



生物

【全国高等学校総合文化祭 自然科学部門】
2018年（平成30年）
ポスター（パネル）発表
奨励賞「河川源流部の生物相及び環境評価法」

吹奏楽

【全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト高校生部門】
2014年（平成26年）
マリンバ……熊谷伊織 優秀賞

放送

【全国高等学校総合文化祭放送部門】
2014年（平成26年）
ビデオメッセージ部門……優秀賞「創り、感じて」
2016年（平成28年）
ビデオメッセージ部門……優秀賞「歩く」

【NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会】
2016年（平成28年）
アナウンス部門
……照井渚彩　2位

照井渚彩

写真提供：岩手日報社

忠實自彊
質實剛健

校歌

作詞　伊藤九万一

一、世に謳はれし浩然の　大氣をここに鍾めたる
秀麗高き巖手山　清流長き北上や
山河自然の化を享けて　汚れは知らぬ白堊城

二、明治十三春なかば　礎堅く疊まれて
星霜ここに幾かへり　徽章の松の色はえて
覇者の譽れは日に月に　世に響くこそ嬉しけれ

三、忠實自彊の旗高く　文武の海に彌る日の
久遠の影を身に浴びて　理想の船路一筋に
雄々しく進む一千の　健兒の姿君見ずや

四、振へや杜陵の健男兒　海陸四方幾萬里
巉峭峙つ起伏の岨　澎湃寄する激浪の
其處奮鬪の活舞臺　其處邁進の大天地